

アゼルバイジャンにおける食料自給

2021 年 11 月 1 日付経済トピック「アゼルバイジャンにおける農業の概要」の続報として、今回はアゼルバイジャンにおける食料自給について紹介します。

アゼルバイジャンにおける穀類の自給率は、2018 年に 74%(172 の国・地域中 68 位)を記録しました。2000 年代後半以降、60%から 80%の間で推移しています。各穀物の品目別で見ると、小麦の自給率は穀類の中でも低い水準にあり、50%から 60%台で推移しており、2010 年には 48%にまで低下しました。他方、大麦については、2010 年、14 年は 80%台となりましたが、2018、2019 年には 100%を超え、穀類の中では相対的に安定した国内生産が続けられています。なお、アゼルバイジャンで生産が盛んなヘーゼルナッツやクルミについては、2017 年に自給率 152%を記録しています。果実類についてもおおむね 110%以上の自給率を維持しています。

野菜、穀類は多くの品目で自給率が横ばいで推移する中、トマトの自給率は上昇しており、2007 年時点で 106%だった自給率が、2020 年には 131%を記録しました。

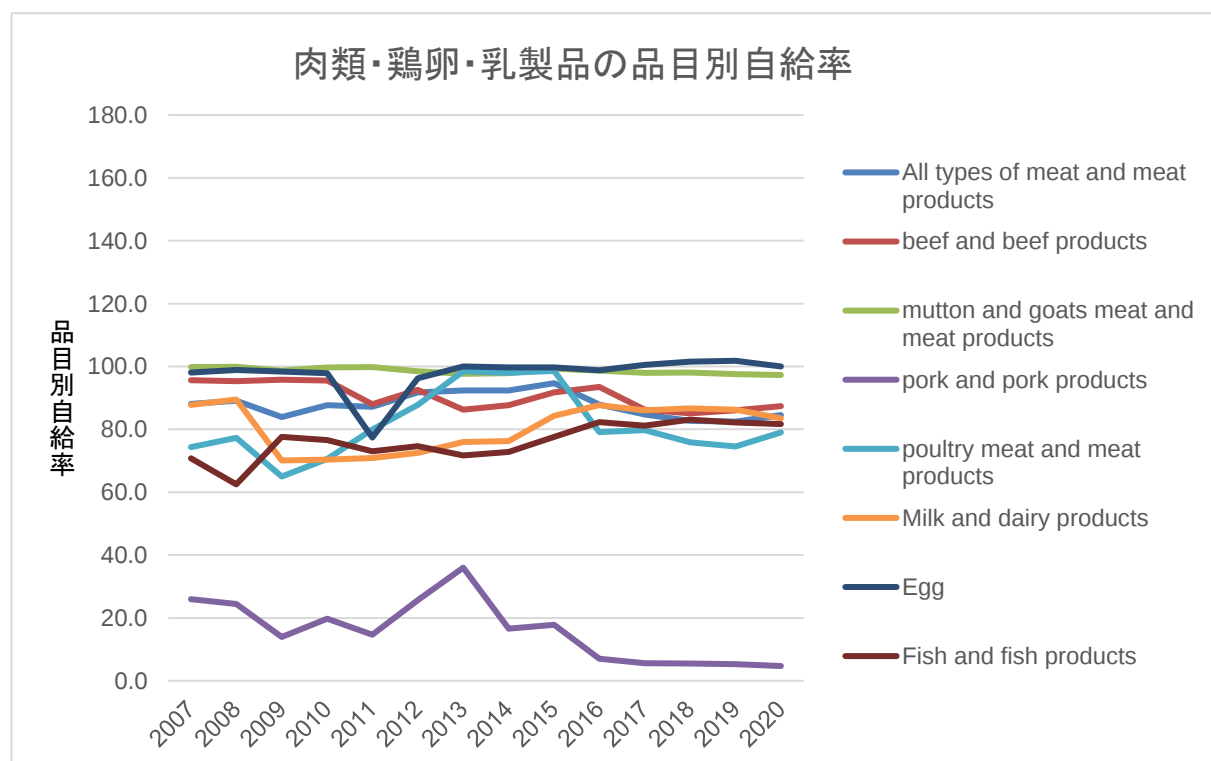
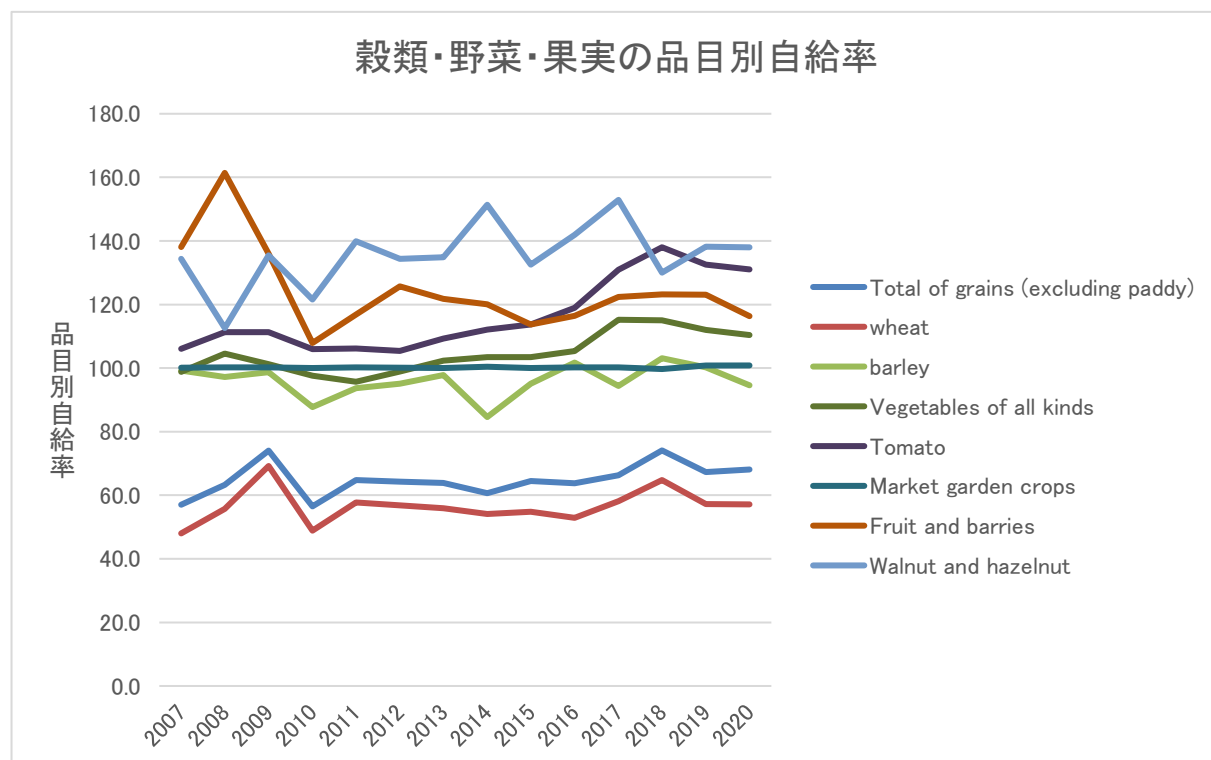
肉類では、羊肉及び山羊肉が 95%以上で推移し高い自給率を誇ります。他方、鶏肉は 70%から 100%と年によって自給率にばらつきが見られます。鶏卵は、2007 年以降、2011 年を除き 95%以上を維持しています。

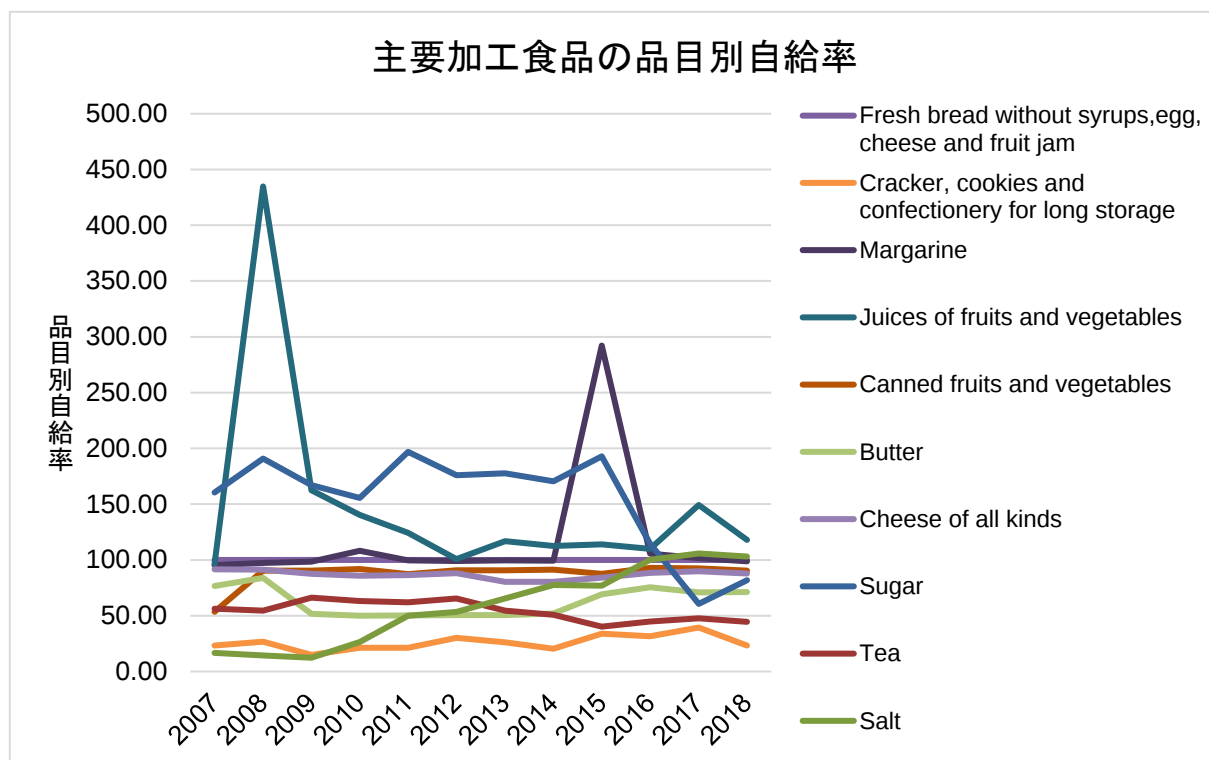
また、豚肉は、アゼルバイジャンにおける主たる宗教はイスラム教ではありますが、ロシア系住民の多く住む地域を中心に生産も行われており、2020 年の自給率は 4.7%となっています。

最後に加工品については、果実及び野菜由来のジュースの自給率が高いほか、植物油脂を原料とするマーガリンの自給率が高くなっています。また、砂糖については 2016 年以前は 100%を超える自給率を維持していましたが、2017 年以降は自給率 100%を下回りました。塩については、2007 年 16.8%だった自給率が 2016 年に 100%を超えました。しかし、その他の加工品の自給率は概して低い状況です。

(注: 自給率に関する数値は、国家統計委員会の発表を引用。算出方法は、「品目別自給率=国内生産量/(国内生産量+輸入量-輸出量)*100」)

※国家統計委員会の発表データを元に当館にてグラフ作成





(以上)